

教育課程モデル事業

三高トライアングル学習

～授業・家庭学習・課題研究の有機的結合を目指して～

課題研究

課題発見力・課題解決力・
プレゼン力

知識・技能、
思考力・判断力・表現力

基礎学力の補強

授業

家庭学習



平成29・30年度 教育課程実践モデル事業

三高トライアングル学習

～授業・家庭学習・課題研究の有機的結合を目指して～

島根県立三刀屋高等学校

H30. 4. 12

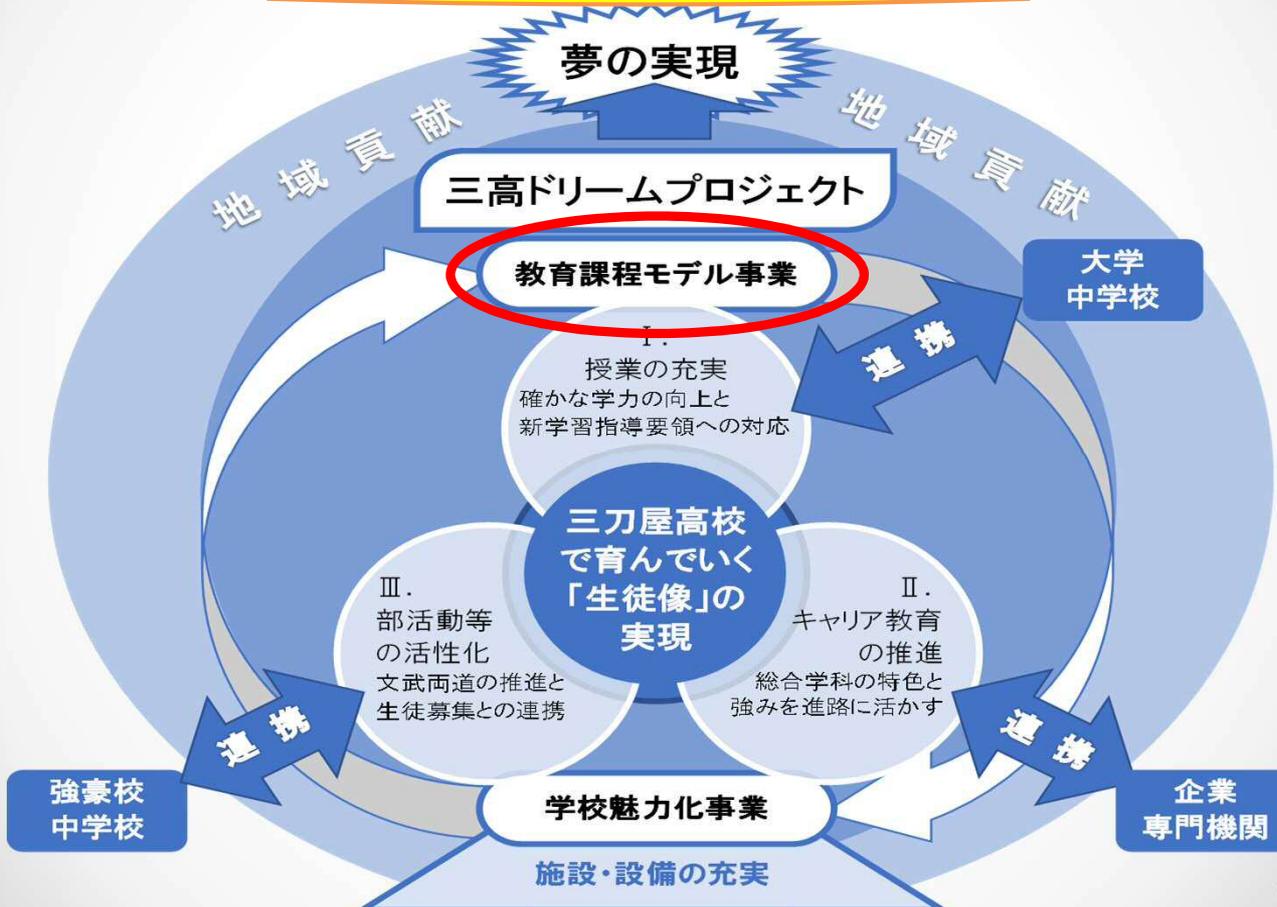


- 1 研究テーマ:「三高トライアングル学習」
とは
- 2 研究テーマ設定の理由
- 3 研究担当者および研究体制
- 4 平成29年度の実施概況
～校内研修を中心に～
- 5 平成29年度の具体的な工夫改善
- 6 平成30年度 of 取組

1 研究テーマ

「三高トライアングル学習」とは

三高ドリームプロジェクト



教育課程モデル事業

三高トライアングル学習

～授業・家庭学習・課題研究の有機的結合を目指して～

課題研究

課題発見力・課題解決力・
プレゼン力

知識・技能、
思考力・判断力・表現力

基礎学力の補強

授業

家庭学習



2 研究テーマ設定の理由

①今後の教育改革・入試改革

②本校の強み と 弱み

2-①今後の教育改革・入試改革

a: 次期学習指導要領

○2017年度告示→2022年度実施

学びに向かう力、知識・技能、思考力・判断力・表現力

b: 大学入学共通テスト

○思考力・判断力・表現力を求める問題に

マークシート問題に加え、国語と数学は
記述式問題を導入(理科、地歴公民も今後)

○英語4技能の評価について民間試験を導入

2-②本校の 強み と 弱み ...「学び」の面

強み：産社や総学での課題研究
(課題設定、調査、思考・判断、発表など
＝探究的な学び)



弱み：各教科の授業への広がりの不足
(思考・判断・表現の場面の少なさ、
課題研究と教科とのつながりの弱さ)

2-②本校の 強み と 弱み

...「生徒」の面

強み： 指示に従う素直さ



弱み： 現状への満足

貪欲さの不足

(基礎学力・学習時間・主体性)

「求められる力」と「現状」との差



本校の「強み」を生かしつつ、
「モデル事業」による新たな
挑戦を試みる

3 研究担当者および研究体制

①研究担当者

②研究体制

3-①研究担当者

リーダー 馬庭 寿美代
サブリーダー 佐野 剛

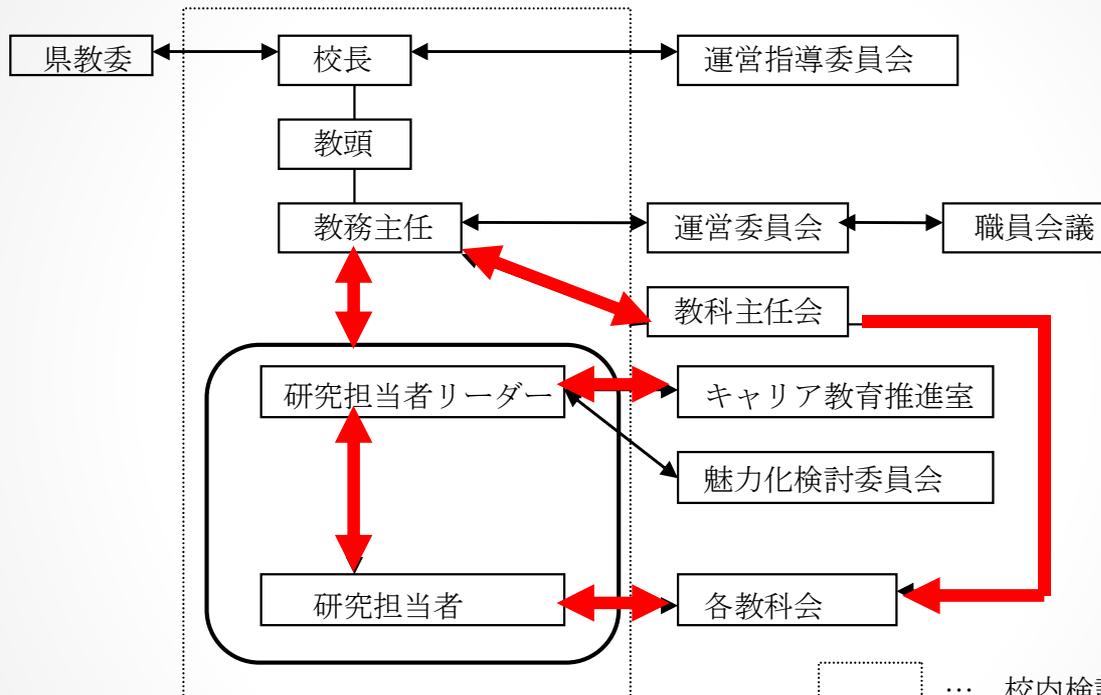
シニアアドバイザー
(H29研究担当者)

国語 保科綾香
地歴 國分 健
数学 岩井大輔
理科 佐野剛
英語 川谷 毅

H30 研究担当者

国語 前田英子
地歴 長岡将司
数学 山崎隆宏
理科 遠山 佳
英語 多田昌導

3-②研究体制



⋯ 校内検討会メンバー

⋯ 研究担当者 6 名

4 平成29年度の実施概況

～校内研修を中心に～

①実施概況

②校内研修のようす

4－①H29実施概況

平成29年度実施

- * 運営指導委員会 (年2回)
- * 校内研修会 (年7回 授業研究含む)
- * 校内検討会 (年8回)
- * 先進校視察等の研修 (3月に2校)
- * 研究授業 (各担当者2回)
- * 中間報告会 (2月)

4－②H29校内研修のようす

第1回:6月

- ・本事業及び研究主題等についての周知

第2回:8月

- ・大谷大学教授(元京都市立堀川高等学校校長):荒瀬克己氏による講演(雲南3校合同研修会)
「教育課程における探究的な学び～学習指導要領等の改定を見据えて」

☆第3回:9月

- ・研究授業→授業研究
- ・グループ協議「三高生につけたい力」

第4回:9月

- ・ベネッセコーポレーション:足立大樹氏による講演
「思考力・判断力・表現力を育むための授業改善について」

第5回:11月

- ・研究授業→授業研究

第6回:12月

- ・研究授業→授業研究

☆第7回:12月

- ・グループ協議「三高生につけたい力を各教科でどのように育むか①」

第8回:2月(予定)

- ・協議「三高生につけたい力を各教科でどのように育むか②」

☆第3回研修会(9月)(グループ協議:三高生につけたい力)の様子



三高生につけたい力 - 8つの資質・能力 -

資質・能力	概要
① 広い視野(多角的な視点)	多角的な視点で物事を捉える力
② 当事者意識(主体性)	身の回りの課題や所属するコミュニティに対してジブンごととして捉える力
③ 目標設定力(計画力)	自ら高い目標を設定、目標の実現に向けて計画を立てる力
④ 思考力(批判的)	問題の原因や構造を深く考え、因果関係を整理する力
⑤ 実践力・実行力	掲げた目標や解決したい課題に対して、一歩踏み出して行動する力
⑥ 自己主張・自己表現	自分の気持ちや考え、意見を相手に伝える力
⑦ 協働する力	異なる世代・背景や価値観を持つメンバーとも協働して物事を進める力
⑧ 振り返る力(メタ認知)	目標に対して、自身の現状を客観的に見つめて改善する力

☆第7回研修会(12月)(グループ協議「三高生につけたい力を各教科でどのように育むか」)の様子



「つきたい力」をどのように育むか(各教科の重点ポイント・方策)

三高生に求める資質・能力を育てるために各教科で行う取り組み											○をつけた資質能力を育むために何ができるか			
資質・能力	概要	国語	地歴公民	数学	理科	保健体育	芸術	英語	家庭	商業	産社・総学	学校行事	授業・教授法	評価・テスト
①広い視野 (多角的な視点)	多角的な視点で物事を捉える力	○	○	○	○								【国語】様々な文意に触れる。 【地歴公民】授業において多角的に考えるチャンスが多い教科であるので、その部分を強調しながら指導していく。 【数学】別解について 【理科】単元・他教科、実生活・授業へ入れる。 【保健体育】インターネット・新聞を活用する。	【地歴公民】テスト問題の工夫、論述の指導など 【数学】場合分けをきむテスト、分野を超えたテスト 【理科】総学、課題研究
②当事者意識 (主体性)	身の回りの課題や所属するコミュニティに対してジブンごととして捉える力					○						○	【保健体育】身近な健康問題から考えさせる。 【産社・総学】研究テーマの設定、フィールドワークでの活動 【学校行事】積極的な提案	【産社・総学】ワークシート、成果発表(PPT・論文等) 【学校行事】LHRでの発言、感想、行動観察
③目標設定力 (計画力)	自ら高い目標を設定、目標の実現に向けて計画を立てる力					○						○	【商業】取得したい線を決定させ、毎時間の理解度を確認させる (Word、Excel、簿記) 【産社・総学】研究テーマの設定、研究計画書の作成、個別自主研修の計画	【商業】小テスト、定期試験、自己評価シート、検定の可否 【産社・総学】研究計画書、個別自主研修の計画
④思考力	問題の原因や構造を深く考え、因果関係を整理する力	○	○	○	○	○	○					○	【国語】定期的な思考力を問う発問をする。答えが無い問いについて考えさせる。 【地歴公民】資料・史料・グラフなどを用いて考えさせる機会を積極的ににつくっていく。 【数学】学年部統一で1単元1時間、思考力を鍛える授業をする。 【理科】ペアワーク・グループ学習、問いの工夫 【保健体育】グループ学習により深める。 【芸術】創作活動、鑑賞活動 【英語】文章読解の際、情報を読み取る力や因果関係を意識して読み取る力を意識した発問を工夫する。 【商業】模擬問題を渡し、何を表現する、知らせる資料なのかを読み取る力を育成する。	【国語】定期考査 【地歴公民】テスト問題の工夫、論述の指導など 【数学】定期試験の問題作成に反映させる。 【理科】総合問題(テスト) 【芸術】鑑賞活動の中のWSや意見交換より(音楽の発表に結びつけた考え) 【英語】定期試験問題の工夫 【商業】データから分かりやすく発表?
⑤実践力・実行力	掲げた目標や解決したい課題に対して、一歩踏み出して行動する力						○					○	【保健体育】グループノートを作成し、各役割や目標設定を記録し、振り返りを通してグループの反省、個人の反省をすることにより、客観的に状況を把握する。 【産社・総学】フィールドワークでの活動、個別自主研修での活動 【学校行事】役割への参加	【産社・総学】実習報告書、研修旅行のしおり等での振り返り 【学校行事】役割への参加
⑥自己主張・自己表現	自分の気持ちや考え、意見を相手に伝える力	○					○	○				○	【国語】ペアワーク、グループ学習、記述の添削 【保健体育】5と同じ 【芸術】歌唱、創作活動、鑑賞 【英語】学期に1回程度のパフォーマンス評価。各単元で話す活動、書く活動を日常的に行う。 【産社・総学】グループワークでの発言、研究発表 【学校行事】話し合いでの発言、合唱・応援合戦・デモンstration等	【国語】発表、記述物の評価 【芸術】WS、作品提出(根拠に基づいた作品一説明入りのもの) 【英語】定期試験問題の工夫、発表活動などのパフォーマンス評価 【産社・総学】研究発表 【学校行事】LHRでの行動観察、合唱・応援合戦・デモンstration
⑦協働する力	異なる世代・背景や価値観を持つメンバーとも協働して物事を進める力				○	○	○						【理科】グループ活動、実験 【保健体育】5と同じ 【芸術】アンサンブル、合唱等 【商業】グループ学習により振り返る	【理科】建設的な意見、実験の評価を入れる。 【芸術】振り返りシート、演技試験 【商業】レポートの作成(理解度)(メンバーの考え方の受け入れ)
⑧振り返る力 (メタ認知)	目標に対して、自身の現状を客観的に見つめて改善する力			○		○		○				○	【数学】宿題、週末課題 【保健体育】5と同じ 【英語】各授業または単元ごとの振り返り。テストノート、模範ノートの内容の発表。 【商業】模擬問題を解いた後、振り返りによる。	【数学】振り返りシート、直しノート 【商業】レポートの作成(自己評価)

5 平成29年度の具体的な工夫改善

- ①授業
- ②家庭学習
- ③課題研究

5 ー①授業 ～授業改善～

「思考力・判断力・表現力」を育成するための授業を構築する

☆これまでの「教える場面」を大切にしながらも、

- ・「考えさせる場面」を1時間、1単元の中で
創り出す

個人学習、協働学習（ペア、グループ）

- ・「表現する」時間を設定する（書く、発表する）



9月 教科会で取り組みを検討<別紙参照>

☆ICT活用(1年教室にプロジェクタ設置)

5 ー①授業 ～授業と評価の一体化～

「思考力・判断力・表現力」の評価方法

を考える

試験が変われば授業が変わる

例：定期考査の問題に「思考力・判断力・表現力」を問う問題を入れる。



2学期中間試験～実施

授業中の活動の評価方法を考える

例：ルーブリック評価 → 今後検討

5 ー②家庭学習

授業と家庭学習との有機的な関連を図る

☆日々の課題・週末課題・長期休業中の

課題のあり方を考える。(基礎基本の定着)

☆家庭で学習したことをベースに授業を進める。

(授業と関連した宿題のあり方)

☆授業で学んだことを家庭学習で確かなものに。



Classiの導入検討→1年2クラスで試行

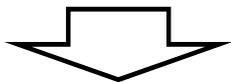
5 ー③課題研究

授業(教科)と課題研究との有機的な 関連を図る

☆学びへの意欲につながる課題研究へ。

☆授業と課題研究の関連を明確に。

(教科と課題研究との関わり)



次年度以降の1年「産業社会と人間」

2年「総合的な学習の時間」の指導計画

の検討(キャリア教育推進室との連携)

平成30年度入学生キャリア教育カリキュラム案

「課題研究」の中に「社会探究ゼミ」を設定

	生徒間の関係構築	[HOP] -探究の動機づけとスキルを学ぶ-	[STEP] -探究のやり方を学ぶ-	[JUMP] -探究の実践-					
1年生	目的	フレッシュマンセミナー	社会探究ゼミ	探究スキルゼミ	課題研究 I			課題研究 II	
	内容		マイテーマ探し	テーマ設定・予備調査	仮説の検証調査 インタビュー・アンケート他	研究発表準備	発表会	マイテーマ発見	グループテーマ設定 予備調査・研究計画書
2年生	目的	課題研究 II			論文作成				
	内容	仮説の検証調査・インタビュー・アンケート他			東京研修	研究発表準備	発表会	課題研究と進路をつなげる	
3年生	目的	課題研究と進路をつなげる							
	内容	志望理由書			<p>各教科90分の授業を企画し、「探究のプロセスを学ぶ」「テーマを深く掘り下げることの面白さを伝える」ものとし、「課題研究」につなぐ動機づけの一つとする。</p>				

6 平成30年度の取組

①研究体制の再編

②授業と家庭学習のつながり

i 授業・試験の改善

ii 家庭学習の改善

③授業と課題研究のつながり

④各教科「つきたい力」の設定・
実践・振り返り

6—①研究体制の再編

- 研究対象者の裾野を広げる
- 研究担当者会の時間割への設定
 - Classi担当・ICT担当も一緒に
- 具体的な年間計画の早期作成
 - 長期的、短期的ゴールの「見える化」
- 研修機会の増加
 - 校内研修、先進校視察

6-②授業と家庭学習とのつながり

i 授業・試験の改善

- ・思考力、判断力、表現力を育む授業の一層の充実
 - ・定期試験に思考力、判断力、表現力をみる問題を出題
- 点数を計り、伸びを調べる

6-②授業と家庭学習とのつながり

ii 家庭学習の改善

- ・思考力等を育む授業を実践するため、
基礎基本の習得を徹底させる家庭
学習のあり方を検討・実践する
- ・Classiの効果的な活用(授業、家庭学習)
について検討・実践する

6－③授業と課題研究とのつながり

- ・「社会探究ゼミ」の実施と改善
- ・教科が課題研究等に関わる場面の検討
(社会探究ゼミ以外)

6-④各教科「つきたい力」の設定・実践・振り返り

・各教科「つきたい力」の設定

知識理解、関心・意欲・態度、

思考・判断・表現のそれぞれについて

協議し**共通理解**をもって**実践**

・特に「思考・判断・表現」については、

「ルーブリック」も作成し、それに基づいて

達成状況の振り返りを行う(学期ごとなど)

最後に、本事業の「評価」について

- ・生徒アンケートの実施
平成29年7月実施
→平成30年7月にも実施予定(変化をみる)
- ・思考力・判断力・表現力を問う試験等による
評価(伸びを調べる)
- ・家庭学習時間の変化
- ・模試結果の追跡評価 などにより行う